



All Japan Road Race Championship 2021

RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

■SDG Motor Sports RT HARC-PRO. Media Information 2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 スーパーバイクレース in 九州

大分県・オートポリス (1周=4.674km)

9月18日(土): 公式予選・JP250 決勝

天候: 晴れ コース: ドライ

9月19日(日): 決勝 天候: 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 7,200人 (2日間合計)

ST1000クラス #5 榎戸 育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

予選: 8番手 (タイム: 1分52秒468)

決勝: 12位 シリーズランキング: 4位

J-GP3クラス #3 成田 彬人

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 12番手 (タイム: 2分01秒525)

決勝: 11位 シリーズランキング: 16位

ST600クラス #35 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 18番手 (タイム: 2分02秒150)

決勝: 16位 シリーズランキング: 20位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 10番手 (タイム: 2分17秒775)

決勝: 12位 (インタークラス: 7位)

シリーズランキング: 9位 (インタークラス)

AUTOPOLIS



All Japan Road Race Championship 2021 RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

早くも最終戦を迎えた全日本ロードレース 榎戸育寛がシリーズランキング 4位を獲得



昭和電機株式会社の全日本ロードレース第2次プロジェクトは、2014年にスタート。この年は、小林龍太がST600クラスチャンピオンに輝いた。あれから時は流れ、このプロジェクトを卒業していった2人がMuSASHi RT HARC-PRO. Hondaの主力ライダーとなり、JSB1000クラスに名越哲平、ST600クラスに埜口遥希がエントリー。埜口が見事シリーズチャンピオンを獲得した。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

プロジェクト8年目となる2021年シーズンは、SDG Motor Sports RT HARC-PRO. から昭和電機広報社員である榎戸育寛がST1000クラスに、成田彬人がJ-GP3クラスに、SDG Motor Sports Jr. Teamからステップアップしてきた千田俊輝がST600クラスに、そして永遠のエアスライダーである赤間清がMFJカップJP250にエントリーし、4月の開幕戦から今回の最終戦を戦ってきた。

9月に、それも大分県・オートポリスで最終戦を迎えるのは、コロナ禍の影響によるスケジュール変更があまり異例のこと。今回は、レースウィークに入り台風14号が九州の西側に停滞。初日となる金曜日に入り最接近し、走行に影響を与えた。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

8月上旬にオートポリスの事前テストが行われたが榎戸は、諸事情により参加することができていなかった。ST1000クラスの1本目の走行は奇跡的に、ほぼドライコンディションで走ることができていた。ここでセッティングを早く始めて行こうという思いが空回りしてしまい、僅かにラインを外した際、転倒を喫してしまう。幸い

大きなケガはなかったがマシンのダメージが大きくメカニックは修復に追われることになってしまっていた。

台風14号の影響を受け、ST1000クラスの2本目の走行はキャンセルとなってしまったため、土曜日の35分間の公式予選と、日曜日朝にある20分間のウォームアップ走行をフルに使いマシンセットを進めて行った。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

14周で争われたST1000クラスの決勝。予選8番手3列目から好スタートを切った榎戸は、5番手で1コーナーに入っていく。オープニングラップは、7番手で戻って来るが、思うようにペースを上げることができずに1台、また1台とかわされ3周目までに11番手に後退。決勝に向けて変えたセットが、よくない方向に行ってしまう。厳しいレースになってしまっていた。8周目にも1台にかわされポジションを落とすが何とかゴールを目指し12位でゴール。シリーズランキングは、昨年の5位から1つ上げ4位で2021年シーズンを終えた。



J-GP3 #3 Akito Narita

J-GP3クラスの成田は、スタートで出遅れてしまい、そこから追いついて行くが11位。オートポリスを初めて走った千田は、15位争いを繰り広げ惜しくも16位となり、ポイント獲得はならなかった。MFJ CUP JP250の赤間は、三つ巴のバトルを序盤は展開。そこを抜けだし、前のライダーに追いつくが、ギリギリかわせず12位(インタークラス7位)でチェッカーフラッグを受けた。



ST600 #35 Toshiki Senda



■榎戸育寛コメント

「事前テストに参加できなかった分、レースウィークの走り出しが重要だと意気込み過ぎてしまい金曜日の1本目で転倒し、マシンを大破させてしまいました。予選までしっかりと修復してもらえましたが、チームに迷惑をかけてしまい申し訳ありませんでした。予選、朝のウォームアップ走行と何とかマシンを仕上げた勝負したかったのですが、いい状態にマシンを持っていくことができず悔しいレースになってしまいました。ST1000クラス2年目、シリーズランキングは一つ上がりましたが、反省点が多く残るシーズンになりました。この経験を糧に、もっと速く強いライダーになれるように努力して行きます。2021年シーズンも多くの応援ありがとうございました」

■成田彬人コメント

「まずは応援してくださった皆さんのおかげで無事にシーズンを戦い終えることができたことを感謝いたします。オートポリスラウンドは、事前テストで調子がよかったので、表彰台を狙っていきかけたのですが、そのレベルまで持っていくことができませんでした。スタートを失敗してしまい追いついたレースになりましたが、その中で収穫もありましたし、シーズン通して、毎戦成長できた実感がありました。支えてくださったチームを始め応援してくださった皆さんには、成績で恩返しできずに申し訳ない気持ちでいっぱいです。来年こそ結果でよろこんでいただけるように、しっかり準備して行きたいですね」

■千田俊輝コメント

「レースウィークで初めてオートポリスを走るので、天候が頼みの綱だったのですが、初日はドライで走ることができず、そのまま予選となってしまい、なかなか厳しいレースになってしまいました。それも鈴鹿でケガをしたことが、一番の原因なので反省しています。ST600クラス1年目でしたが、チームの皆さんのおかげで、最終戦まで戦い抜くことができました。まだまだ課題ばかり残っていますが、来シーズンは、もっと上位で走ることができるように、しっかりトレーニングをして備えます」

■赤間 清コメント

「今回のオートポリスも完全なドライコンディションは、決勝のみという天候に翻弄されたラウンドになりました。その中でも、自分自身の中で前進できた部分があり、レースでも接近戦から抜け出して前を追うことができました。今シーズンも昭和電機サーキットクルーの皆さんのご協力のおかげで、素晴らしい環境でレースを戦うことができました。本当にありがとうございました」



このリリースのお問い合わせは 昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで